夜明けのコーラス探しの旅を終えて(2010/10/17)

野鳥の録音を止めて 4 年になります。耳が老化して高音部が聴き取りにくくなったのが原因で止めたのですが、20 年以上録り続けてきた録音は千葉県立中央博物館(大庭照代先生)が引き取って下さることになりました。

録音を整理して調べてみたら、一番多く通った録音地は八丁平で 53 日(26%)、第 2 位は大江山 31 日(15%)、第 3 位は芦生の 21 日(10%)となっておりました。合計すると 105 日となり、総日数 205 日の 51%を越える日数になります。これらの地はいずれも京都府下にあり、夜明け前に到着するように 3 時間か 6 時間前に私宅を出て、録音ポイントで夜の鳥を録りながら、一番鳥が鳴くのを待ったものです。

私は、今では伝説となってしまった野鳥の夜明けのコーラスが聴きたくて、録音機を携えて春から初夏の休日の夜明けをねらって、これはと思われる地を訪ね歩いておりました。

録音を思い立った 1983 年は録音予定地の調査や録音機器の調達で終わり、翌年はいよいよ録音にかかりましたが、マイクを買い換えたり集音器・三脚を買い足したりしてまたまた一年が過ぎてしまいました。その年は京都野鳥の会の例会で長野県木祖村･薮原で録ったものが唯一の賑やかな録音でしたが、当時の伊藤会長に聴いてもらったところ、「目の前の人の言葉が聞こえんのですよ・・・」というほどに騒々しかった戦前の夜明けのコーラスには程遠いものであることが分かりました。この日から『夜明けのコーラス探し』の旅が始まったのです。

録音地の第一の条件は野鳥が多く棲息することですが、2 番目には雑音の少ない所ということになります。それに度々出かけられる条件として自宅から近いところが望ましいのです。八丁平と大江山はいずれも車を降りて歩く時間を入れても 3 時間以内の地にあるのですが、芦生は車で 2 時間余り走ったあと更に林道と山路を夜中に 3 時間余りも歩くという遠い山中にありました。そのいずれにも騒々しいほどの夜明けのコーラスが無いことが分かり、1990 年ごろからは信州の御嶽山や霧ケ峰高原(八島湿原)・大台ケ原などにも足を伸ばすようになりましたが、ついに伝説の夜明けのコーラスに出会うことはありませんでした。以下、録音地についての記憶をまとめてみました。

①八丁平

通った日数が 53 日とは驚きました。八丁平は京都市の北部、左京区久多にあり、1000m 弱の稜線に囲まれた標高 810m の高層湿原です。90ha あまりの面積があり、堆積した泥炭の上にミズゴケやスゲ類が繁る特殊な環境として知られ、保全されております。湿原は乾燥化が進み、笹や樹木などが侵入するので植生なども年々変化しておりますが、野鳥たちにとっては好ましい環境であるらしく、特にウグイスの棲息密度が高いのは驚くばかりです。5 月下旬から 6 月にかけてはホトトギスの仲間が勢ぞろいして賑わいますが、この地で繁殖する野鳥の数が多いことを裏づけしているとも言えるでしょう。

湿原の周りの山は緩やかで谷の水音も静かですし、山に囲まれているので風の音が低いのと街や道路からも遠く離れているので人による雑音はありませんでした。

留鳥であるカラ類、キツツキ類は 3 月頃から繁殖期に入るらしく陽気の良い日にはさえずりで賑わいますが、夏鳥たちの繁殖期は 5 月から 6 月にかけてが最盛期となります。

八丁平は京都駅を基点にして 30km 北部の山中にあり、車を降りて更に 1 時間ほど歩くことになります。私はたいてい夜中を過ぎてから出かけてゲート前に車を止め、出来るだけ明かりを点けないで入山

するのが慣わしでした。ある時、木道でシュラフに包まって寝ている人を踏みそうになり、夜が明けてから再び出会ったときに「市会議員の S です」と名詞を出されたのには驚きました。あの頃環境保護運動が激しく進められており、その主要メンバーだったようです。この山域では今でもキャンプは禁止されていると思います。

② 大江山

大江山は京都駅の北西、約 80km 余り(道路距離では 100km)の日本海に近い所にあります。今では福知山市に編入されましたが鬼伝説で有名な里であり、また、元伊勢、天岩戸、皇大神宮、外宮、稲荷社などの史跡や神社をめぐる社寺林もそこそこ残されています。録音ポイントは大江山(833m)の東側斜面の中腹にある大江山稲荷社(630m)の境内ですが、ガラス張りの休憩所があり、無料で利用させてもらえます。休憩所はテラスの上に張り出して造られており、下の森林帯(神社の森)に向けて録るには絶好の設計となっておりました。夜になると福知山市、綾部市、舞鶴市などの街の灯りも遠望されますが音までは聞こえてきません。休憩所の前まで舗装道路が来ており、畳の上で休ませていただけるので野鳥の会の人などを案内するには安心で、喜んでも戴きました。ただ、天気が良い日には日の出を撮りたい写真家が車でやって来て無遠慮に振舞うので困ったこともありました。

前日の明るいうちに休憩所について窓を開け放し、夜中じゅう鳥の声を聴きながら寝るのは最高の贅沢でしたが、この辺りでは非常に珍しいヤイロチョウの声を聴いた夜と、屋根の上に張り出した枝にコノハズクがやってきて大声で鳴いた夜は眠れませんでした。

③芦生

芦生は京都市の北部約 40km にある京都府南丹市美山町の一角で、福井県と滋賀県に府県境を接して広がる森林地帯です。1921 年以来京都大学農学部の演習林として貸し付けられて林業の演習や研究に利用されてきましたが、1980 年頃から自然保護運動が強まり、原生的様相を残した天然林として保全される方向に向かい、総面積 4200 ヘクタールのうち約半分は保護・保全されることになりました。伐採された残りの森林も自然に植生が回復しましたが、21 世紀に入る頃から鹿の食害とカシノナガキクイムシによるナラ枯れ病が全域に広がり、森林環境は著しく変わってしまいました。

それまで林床を一面に覆っていた笹が完全になくなり、8 割以上のミズナラが枯れてしまったのですから林床は乾燥し、そこで生活していた昆虫や両生類、爬虫類、哺乳類など多くの動物が姿を消しました。野鳥も当然影響を受けて棲めなくなり、かっての野鳥の楽園は消滅したのです。録音は貴重な生態系の記録となってしまいました。

当時は京大芦生演習林と呼ばれておりましたが入林には京大の許可が必要で、原則として徒歩での入林となります。滋賀県側から回りこんで地蔵峠の手前で車を止め、車中で仮眠したあと午前 0 時に出発して徒歩で地蔵峠を越えます。コノハズクを聴き、星を眺めながら福井県境の杉尾坂や、中心部の傘峠などへと向かいましたが、途中ではいろいろな動物とニアミスをします。闇夜でもライトを点けずに歩くので姿を見ることはありませんが、時にはイノシシや鹿などの大型動物が足元からドドッと地響きをたてて遠ざかることもありましたし、一度だけですが数メートルの距離で熊にうなられたこともあります。なぜか恐怖心は起こりませんが、逆に言うと恐怖心が起こらないから森の動物の仲間に入れてもらっているのかも知れません。

④御嶽山

御嶽山は 3000m を越える独立峰で、南の尾根に開発された御岳高原リゾートには国設御岳スキー場に続いて御岳高原スキー場があり、標高 2200m の田ノ原天然公園まで立派な舗装道路が続いているので車での夜行には安心して出かけることが出来ました。合計 12 日間の録音がありますが、未明から早朝にかけては人も車も少なく良い録音が残っています。

その頃御岳高原にはスキー目的で毎冬数日泊まっておりますが、五合目の村営八海山荘の支配人とも親しくなり、野鳥が多いので餌台の設置を勧めたところ、ロビーのガラス窓の外 2 メートルの近くでゴジュウカラ、ヒガラ、シジュウカラなどが恐れる様子もなく餌を採るようになり、さすがは木曽の人だと感心したことがありました。木曽は飼い鳥文化の中心地だったのです。また、ハレー彗星がやって来たときはスキーを兼ねて見に行きましたが、窓辺に割り箸くらいの大きさに彗星が架かっているのにびっくりし、寝ている支配人を起して見てもらいました。その名残が**星の子銀河村キャンプ場**として名前が残っております。

六合目より下の御岳高原はスキー場や保健休養地として開発し尽くされ、森林限界にある田ノ原の三笠山(2256.1m)だけがまとまった森として残されました。その結果だと思われますがその森に森林性、高山性の野鳥が過密とも思えるほど多く見聞されました。中でもルリビタキの合唱はすさまじく、キクイタダキなどの声を聴き取るのは容易ではありませんでした。

六合目から上は山岳地帯で傾斜も急になり、強風の影響で樹木は低木化し、更に登るとハイマツ帯へと続きます。一度だけ頂上まで録音機を持って登りましたが、噴気音がごうごうと物凄く憧れのアマツバメの声は余り良く録れませんでした。

⑤八島湿原

霧ケ峰高原も車での夜行には安心で便利な録音ポイントでした。八島湿原とその周りでは夜明け前からノビタキやオオジシギ、カッコウ、ホトトギスなどが賑やかに鳴きたてておりました。暗闇の中で草むらに座り込んで、ノビタキの哀愁を帯びた歌を聴いているのはなかなか良いものでしたが、ビーナスラインの八島から直接諏訪に降りる林道から見下ろす森林地帯も野鳥の声が多いことに気がつき、そちらの方は何度か放置録音をしてみました。1995 年に舞台収録用のマイクロフォン(ECM-999 SONY)を手に入れて集音器なしで録ってみたところ､素晴らしい夜明けのコーラスがあったことが分かりました。なぜか良く分かりませんが、録音をとる時には傍に人間が居ないほうが、自然な録音が録れるような気がします。

この森林帯を通る林道はその頃閉鎖されていて、車は勿論、人もほとんど通りませんでした。国定公園の山域となっていて鬱蒼とした樹林に覆われていたところ、林道が拓かれて森にも陽が差し込むようになり、棲む野鳥も増えたものと思われます。

放置録音はあちこちで試みましたが、人が傍に居ては起こりえないような場面を想像させるような録音もいくつかありました。とくに夜明けのコーラスは、野鳥が動き回る様が想像できるという意味で、集音器を使わないステレオの放置録音は面白いと思います。

⑥大台ケ原

大台ケ原は紀伊半島の中央部にあり、吉野熊野国立公園特別保護地区に指定されているので良く自然

が保全されています。しかし日本でも有数の多雨地帯なので水の騒音のない録音ポイントは限られます。京都からは大和平野を縦断して市街地を走り、険しい山間部を通り抜けての道のりが大変で、前夜に出かけて夜明け前に録音ポイントに着くのは、なかなか大変な録音行でした。

途中には大峰山や和佐又山などがあり、録音をとりながら、車で回るのが慣わしでしたが、野鳥の密度は多くなく、魅力的な録音ポイントは多くはありませんでした。多分公園全域が自然度が高く、多雨のため自然が新鮮なので野鳥は分散していたのだと思います。

⑦内山

内山は同じ京都府下にありながら車では 4〜5 時間もかかり、植生や野鳥は面白いのですが、たびたび行けるところではありませんでした。

『内山ブナ林』は「京都の自然 200 選」に京都府が選定し保全しており、京都府京丹後市大宮町五十河(イカガ)内山にある約 40 ヘクタールのブナ林と、その山腹の台地にある廃村跡地(標高 370m の屋敷跡、農地等)からなっております。丹後半島の中央部にあり、大変な豪雪地帯で、昭和 7 年に廃村となり、昭和 48 年に最後の居住者が離村して、その遺族の要望により公の手により公園整備が進められ、保全されております。

京都府は植物部門でこの環境を「京都の自然 200 選」に選定しましたが、京都府のホームページによりますと『幹回 3.6m というブナの大木がある自然林・・・、このほか 100 種を越す樹木、それに倍する山野草、そして 89 種の野鳥も確認されています』とあり、自然度が高いことが分かります。

『内山ブナ林』は伐採される寸前に地元の自然愛好家(数学・天文学でも専門家)・平井久夫さんが私財で買い取り、自然保護教育のサークルを立ち上げて、やがては大宮町民の森となり、更に展開して京都府民の森となりましたが、人間だけでなく野鳥や色々な生き物にも棲みよい環境となったようです。

野鳥の種類も多く録音には良い環境なのですが、ヒヨドリとカエルの「騒音口害」には閉口します。入り口には自然観察施設「ブナハウス内山」があり、ここを基地にすると早朝の録音には便利です。

⑧北海道

私は北海道の自然に憧れておりましたが纏まった時間が取れないので、在職中は「せめてサツポロ」とビールはサッポロに決め、更科源蔵さんなどの北海道文学や、アイヌに関する記述に親しんでおりました。定年を迎えて落ち着いた時期の 1997 年に、録音好きで北海道出身のUさんが案内するというので、私の車に録音機と野外生活に必要な道具、食料などを積み込んでカーフェリーで出かけることになりました。その翌年と合せて 22 日間の録音の旅でしたが、近畿や信州には無い、想像以上の壮大でワイルドな自然に接し、録音もたくさん録れて満足しました。

梅雨の無い筈の北海道でほとんど毎日、雷や風雨に遭いましたが、それなりに楽しく変化のある旅となりました。ただ、北海道の夜明けは早く、早暁 3 時には野鳥が鳴き始めるのと、Uさんの鼾が凄くて睡眠不足には悩まされました。

北海道と本州の間にはブラキストンラインがあり、生物相が違うと言われておりますが、オオルリは近畿や信州とは違う歌を持っているようです。京都近郊で初めてその歌を聞いたときは、録音機を携えて 40 分ほど追い回して、ようやく姿を見てオオルリだと分かったのですが、そのときは変なオオルリもいるもんだと思いました。それから 5 年経ってその謎が解けたわけです。

北海道の自然は変化に富んでいて、野鳥は環境に合わせて棲息するので、近畿や信州みたいに色々な種類の野鳥が一斉に鳴くという状態ではありませんでしたが、やはり朝はコーラスと呼べるほどの賑わいがありました。特に海岸近い原野での野鳥の歌声が一番印象に残っています。

1997 年は、舞鶴、小樽、札幌、留萌、金岡原生花園、サロベツ原野、稚内、宗谷岬、ベニヤ原生花園(連泊)、クッチャロ湖、紋別で観光・宿泊、オムサロ原生園、岩尾内湖、層雲峡、愛山渓温泉、ほろしん温泉、札幌森林公園、北大理学部、小樽、舞鶴という旅でした。

1998 年は、舞鶴、小樽、野幌森林公園、札幌、静内、賀張、平取、二風谷、新冠、白金温泉、富良野、白金野鳥の森、東大演習林、トムラウシ、東大雪、然別、かんの温泉、帯広、然別湖、上士幌町博物館、置戸湖、上川町、愛山渓、丸瀬布、浮島温泉、金八峠、知床、霧多布、足寄、日高、札幌、小樽、舞鶴という旅でした。

⑨ 島嶼の鳥

島では京都野鳥の会の特別例会で出かけた三宅島(3 日)および西表島(1 日)、石垣島(1 日)での録音があります。いずれの島でも野鳥と人間は混然と生活しており、民家の庭で野趣たっぷりの録音を録りました。

昔の文学者や芸術家、画家などの中には、島に住みついて制作や著作に励まれた人も多かったように思います。私も短期の旅行ではなく、滞在してじっくりと島の自然を味わうのも良いかなと思いましたが実現しておりません。

⑨西京区

私が住んでいるのが西京区です。録音を始めた 1980 年代は市街地近辺では非常に稀だったキビタキ、オオルリ、クロツグミなどの歌い手が、1990 年代以降はだんだん増えてきて、その季節にそのつもりで出かければ必ず聞かれるようになりました。

これは野鳥の数も増えたかも知れませんが、市街地近辺の緑の回復によるところが大きいと私は考えております。戦中から戦後にかけて伐り尽くされて疲弊した禿山が、今では緑に覆われて街中から見回しても伐採跡すら発見出来ないほどに植生が回復し、樹木も大きくなりました。樹木が実を付けるようになり、昆虫などの餌が確保されるようになると野鳥もそこに棲み、繁殖できるようになる筈です。

ただ、2000 年以降は鹿の食害と、ナラ枯れ病の拡大により、森林の植生が一年一年顕著に変わっており、野鳥の生息数や生活にも大きな影響が出ているものと思われます。

終わり